

# 煌け! 登美北

平成27年11月24日(火)  
奈良市立登美ヶ丘北中学校  
生徒指導だより  
文責：三間瀬 充宏

## リスタート

明日から期末テストが始まります。2015年を締めくくるテストです。日頃の学習の成果を十分に発揮して納得のいく結果を出してください。

さて、11月はみなさんにとっては新しい経験をする機会が多い月だったのではないのでしょうか。1年生の人たちは、自分たちの学年から生徒会役員になる人が出ました。今までは、先輩たちがすべてしてくれましたが、これからは君たちも登美北を引っ張っていかなくてはなりません。また、2年生の人たちは、職場体験で事業所に行き働く体験をしました。普段は気にかけていないことに事業所の人たちがどれほど心配り、心配りをされているか。働くことにはどのような意味があり、それがどれほど尊い行為なのかを学ぶことができました。最後に、3年生の人たちは、「進路」に向けての懇談があり、自分の未来を考える最初の一歩となりました。

そんなみなさんの参考になるかわかりませんが、将棋のプロ棋士に今泉健司さんという方がおられます。今泉さんは、将棋のプロ棋士養成機関「奨励会」で2度、挫折を経験され、その後介護の仕事で学んだ前向きな気持ちを修業に生かし、昨年、戦後最年長の41歳でプロ(四段)の座を獲得されました。

棋士になったときには、「決して立派ではない人間でも、夢をかなえることができる。転がり続けて来た半生を記録に残せてうれしい」と言われています。

14歳で関西奨励会に入りましたが、「26歳までに四段」という年齢制限のために退会され、30歳を超えて再度、三段を特例枠で受験、合格されましたが、四段には手が届きませんでした。

当時のことを振り返り、「勝てなかったのは自分の甘さ。挫折というよりは自己責任」と言い切られています。

再度の失敗の後、アマチュアに復帰して、生活のために様々な職業に就かれますが、30代半ばの頃に地元・広島福山で介護の仕事をされます。それが転機となったそうです。

施設には認知症の人が多く、「仕事と思えば便や尿の処理も普通にできたが、力の強い高齢の男性に突然、顔を殴られたのにはまいった」と振り返られています。それも一度のことではありません。それでも、「介護の世界は1分1秒で状況が変化する。相手に怒りの感情を持たず自分の怒りが増えるだけ。自分の何が悪かったのか」と真剣に考えた。「耐える気持ちでは介護できない。お世話した相手に『ありがとう』と言われる喜びがあるから続けられた」と。

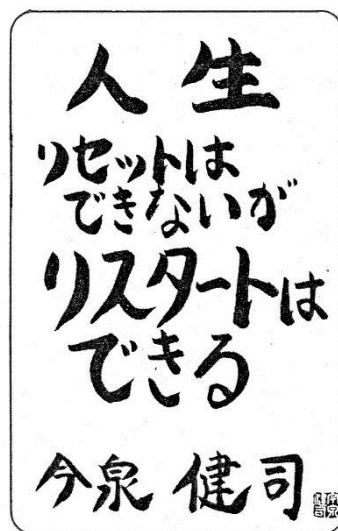
そんな経験をされるのが、いつしか精神面の安定へとつながり、アマ王将戦3連覇など、結果を残していかれます。そして、特例で出場したプロ公式戦で抜群の成績を上げ、今度はプロ四段編入試験に臨み、若手棋士を相手に5局戦ってみごと3勝をあげ合格されます。

2連勝の後、痛恨の逆転負け。「昔ならそのまま崩れていたが、今の自分は多くの人に支えられている」と思い直し、第4局は完勝されます。

棋士になった今、「大器じゃないけど、晩成しました」、「回り道を続けてきた自分の本心です」と言いながら、スタート地点に立てた喜びに満ちあふれ将棋に励んでおられます。

みなさんもうまくいかないことがあるでしょう。しかし、いつまでも続くわけではありません。新しい気持ちでリスタートすれば、きっといい結果が出ます。それを信じて頑張りましょう。

資料：『介護士からプロ棋士へ』(講談社)



将棋四段の今泉さんが名刺の裏に刷り込んだ決意の言葉